

「目前！平昌オリンピック！！」（上岡・臼井）

なにかと話題の平昌オリンピックがもうすぐ開幕しますね！スキージャンプにフィギュア、スピードスケートなどなど、見どころある競技がもりだくさん。しかも、韓国なので時差はなし、寝不足になることもなさそうです^^ちなみにオリンピックは、紀元前776年に古代ギリシアのオリンピックで始まったとされ、慢性的に起こっていた争いもこの期間は休戦していたとこのこと。まさに平和の祭典ですね！！

個人的には・・・若い20代の選手が活躍する中、現役バリバリに活躍される、我らの星☆レジェンド葛西選手の応援に熱が入る今日この頃です。日の丸を背負う選手たちにパワーもらい、この冬も乗り越えましょう！！



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【スマートスピーカー】

人の音声認識する「AIアシスタント」が搭載されたスピーカーのこと。スピーカーに向かって話しかけると、インターネット経由でAIアシスタントがその内容を解析して応答する。指での操作が必要なスマホやパソコンと異なり音声で操作できる。現在できることは天気予報の確認、音楽の再生やタイマーのセット、調べものなど。対応する照明やテレビではオン・オフの操作も可能で今後、活用の幅が広がることが期待される。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【変化に遊ぶべし「松尾芭蕉」】

俳諧を芸術の域に高めた俳聖・松尾芭蕉は1644年、現在の三重県伊賀市に生まれました。江戸時代初期の元禄文化が開花する頃、同じ時代に世の称賛を集めた文学人には近松門左衛門や井原西鶴がいます。18歳頃に俳諧



好きな武家の嫡子に仕え、本格的に俳諧の修行を始めたものの、当主の早世により20代前半で無職となりました。世間も就職難で、学問や武芸で身を立てることは難しいと考えた芭蕉は、俳諧で世に出ることを目指して打ち込みます。20代後半、京都で出版される俳諧集に選ばれるなど実績を積んだ芭蕉は、意を決して江戸に出ます。当時、京都や大阪には新人が入り込む余地はなかったため、新興の地である江戸を選んだのです。臨時の職に就いて食いつなぎながら33歳でプロとして認められる俳諧宗匠（はいかいそうしょう）の地位を獲得。瞬間に江戸屈指の人気の宗匠となりました。しかし36歳で突如、華やかな世界から身を引き、深川の草庵にこもります。当時の作風に行き詰まりを感じていた芭蕉は、経済的にも困窮し孤独に身を置きながら新たな作風を模索しました。芭蕉と名乗り始めたのは38歳、「おくのほそ道」の旅に出たのは45歳の頃でした。「人は変化せざれば退屈する本情なり」との言葉を残し、自身の句風も幾度か変化させています。俳諧に人生を捧げ、旅に生きた50年の人生でした。

今を生きる

先人の言葉

捨てることにある
革新の鍵は

オーストリア生まれの経営学者であるピーター・ドラッカーの言葉。古いものを捨て去り、絶えず新しいものを取り入れなければこの先、衰退するばかりだろう。

トレンドを斬る!

身も心も温まる鍋料理は寒い冬の定番ですが、いつもの鍋とは一線を画す、見た目も華やかな「フルーツ鍋」が注目を浴びて

います。彩り豊かなトロピカルフルーツやベリー類を肉や魚介と合わせると爽やかさや酸味がアクセントとなって味わい深くなり、豊富なビタミンCやクエン酸で美容効果も期待できます。温かい鍋は体を冷やす心配もありません。インスタ映えするカラフルなビジュアルは圧倒的に女性に大人気で、いつもの鍋が斬新で究極の料理と化しています。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【こぶしが咲けば春が来る】

早春の頃、ほかの木に先駆けて白い花をこずえいっぱい咲かせるこぶし。直径10cm程の大きな花は、新葉より早く開花します。「こぶし咲く、あの丘、北国の、ああ北国の春」。千昌夫さんの『北国の春』の歌詞で



もおなじみの花です。東北地方では、こぶしの花が咲き出すともうすぐ春がやって来ます。寒い冬を乗り越えてきた北国の人々は、こぶしの花が咲く日を今か今かと待ち望んでいます。

昔はこぶしの花の開花時期から農作業のタイミングを判断したり、花の向きから豊作かどうかを占ったりしたそうです。そのためこぶしは「田打ち桜」「田植え桜」「種まき桜」などとも呼ばれています。

昔の人は季節の変化(自然現象)から農作業の時期を判断していました。植物がそれぞれの特性に適した季節に開花することを体験的に知っていたのでしょう。子孫を残すために不可欠な植物の知恵が、人間の生活の知恵にもなっていたのです。

多くの植物がそれぞれ決まった時期に花を咲かせるのは、昼と夜の長さから季節を認識して反応する「光周性」という現象によるものだそうです。植物の光周性はきわめて繊細で、明るい時間と暗い時間の差が30分程度あれば敏感に反応するのだとか。夜間でも温室内に照明をつけて日長を調節すると植物は季節を勘違いします。季節外れの花や野菜が店頭で並ぶのは植物の光周性を利用した人間の知恵であり、見方を変えれば人間の欲でもあります。



その昔、自然と人間は今よりも良い関係でした。私たちの祖先は自然を尊重し、敬意を払い、恵みに感謝しながら自然の知恵をお借りしていたのでしょう。春が近づけば自然とこぶしの花が咲くように、何事にもそれに相応しい時期があるものです。真夏にこぶしを咲かせようとすればしっぺ返しをくらうかもしれません。欲も行き過ぎれば商機を逸してしまいます。何事にも焦ることなく、知恵で商機を見出したいものですね。

トナリの

本棚



【文房具図鑑】

小学校6年生の著者が夏休みの自由研究で作った手書きの文房具図鑑です。ペンは先端の空気穴まで丁寧に描かれ「とめ・はね・はらいも完ペキにできる」などとコメントが書いてあります。文房具への愛があふれる自然と笑顔になる一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております ☺☺☺☺☺☺